



「どうする二宮・大磯」

生涯学習講座 4 連続開催

村田・二宮、池田・大磯町長の政策競演が内定している、ゲンコミ生涯学習講座の全容が固まった。10月7日(土)の第1回を皮切りに、年末までの4回シリーズとするもので、共通テーマは「人口減をどう乗り越えるか」。



か」。

第1回の講師は猪股篤雄・東海大客員教授。演題は「二宮への提案 長寿の里からアンチエイジング(抗加齢)の町へ」。同氏は経営不振の県住宅供給公社を再建する一方、東海大学と連携して県西地域の新展開を検討したり、健康寿命を伸ばす学際的取り組みにも着手している。第2、第3回は「だより」18号で既報の通り、村田、池田町長。村田町長が11月4日(土)、池田町長

猪股・東海大客員教授 部・元専務理事 が同18日(土)に決まった。各回とも会場は二宮町民センター。

二宮町は少子高齢化の直撃を受けて人口減、地域活力の低下に直面し、新庁舎移転や再開発をテコにリバイバルプラン作りを迫られている。池田新町長は「政策を総動員して人口対策に取り組む」と語り、独自の構想などを検討中。

このシリーズの最終回は両町長の施策説明をもとに二宮、大磯町の中長期政策テーマを整理し、町民にわかりやすく新規展開の方向をまとめる。講師は地域プランナーとして活躍中の部(しとみ)健夫氏(元県住宅供給公社専務理事)が担当する。同氏は神奈川県庁時代から大磯町と関わり、県公社二宮団地リフレッシュ計画の責任者を務めたキャリアがある。各回とも参加者との議論に時間を割きつつ進める。

部会長会議 岡村氏を参与に選任

8月末、地域こうりゅうルームで部会長会議を開き、人事案件の審議と各部会の事業報告を行った。人事案件では、渡邊恒文氏の一色小CS学校運営協議会長就任に伴う役員交代を了承し、地域再生協議会会長として長年活躍されてきた岡村昭寿氏(写真)を参与に選出した。参与は今年度の規約改正で新設されたポストで、他組織によくある顧問、相談役的存在。岡村氏は友情の山、県営CR部会では現在も中心メンバーとして大きな役割を担っている。



事業部会の報告では、友情の山の一般公開が猛暑などの影響もあってか、かつてなく低調であったこと。生涯学習講座も前年度に比べ参加者が少ないなどの説明があった。一方、こども部会は百合が丘、一色の納涼祭に準備段階から関わり、地区外の子どもたちも引き寄せる賑わいや盛り上がりを演出した。健康団地CRからは宝くじ助成を使った不足器具・備品の確保策など、来年3月末の開業に向けた準備の説明があった。

審議事項として取り上げた「ゲンコミの法人化検討」については、極めて重要なテーマなものの、現時点では収益事業の税金対策、法人化後の維持費用などの課題を克服できる見通しは立っておらず、引き続き検討することにした。